

令和4年度定例総会 3月27日(日) 午後2時～ 市立資料館2階会議室

令和4年度定例総会



出席者 理事及び会員、監事

あいさつ 定刻に至り、西村代表による挨拶 引き続き、立木検定委員長からの検定講評

議長選出 定款18条に基づき 代表西村喜一が議長
事務局担当 大森理事報告
定款第20条に定める定足数を満たしていることを確認し議事に入った。
会員数46名 出席者24名 委任状数7名 欠席者数15名

議長が議事録署名人を指名する
安土町 末房松三氏
益田町 益田 学氏

議事第1号 令和3年度はちまん、あづちふるさとアカデミー事業並びに収支会計 報告の承認

議事第2号 監査報告の承認

議事第3号 令和4年度はちまん、あづちふるさとアカデミー事業計画(案)並びに収支予算書(案)の承認

議事第1号 令和3年度はちまん、あづちふるさとアカデミー事業並びに収支会計報告について」事務局担当大森理事から説明をお願いしたい。

大森事務担当理事

議案書(別紙出席者全員に配布)に基づき 令和3年4月1日～令和4年3月31日の事業報告並びに収支会計報告を行う。

引き続き、監査委員土田康人氏、武内潤子氏を代表して土田康人が会計監査報告をする

大森事務局長

会員担当に配布している資料に基づき事業計画、収支予算書(案)を説明する。特に収支の関係で、会員・賛助会員の増員確保をお願いしたいと、皆さんに強くお願いした。

■2021年 事業報告書

令和3年4月1日 ～令和4年3月31日

事業実施内容

- 令和3年4月10日 理事会
- 令和3年4月25日 第1回会員研修会
兼西川新五郎家(人数制限)・比年種八幡宮 参加人数50名
- 令和3年5月14日 第2回会員研修会 山村純也氏講演会(京都検定1級合格者)
参加人数理事会43名
- 令和3年5月24日 プレス発表(市役所記者クラブにて)
- 令和3年6月13日 第1回事前勉強会
・びわこ湖水(講師:琵琶湖博物館名誉館長榎原徹氏)
・水郷めぐり(高真珠水郷観光部)
・長命寺(講師:武内佳雄・山本順也氏 研修)
参加人数63名
- 令和3年8月22日 第2回事前勉強会(コロナ延期)
・沙汰水神社・浄厳院・旧伊庭家住宅(研修)
9月19日(コロナ延期)(滋賀県緊急事態宣言)
令和4年3月25日(延期開催)参加人数42名
- 令和3年9月26日 記念講演会とパネルディスカッション(文化会館大ホール)
(コロナ延期)(滋賀県緊急事態宣言)2022年5月22日(開催予定)
- 令和3年10月17日 第1回初級検定試験 申し込み者351名
市立資料館・白雲館・近江八幡商工会議所・文化会館・
近江兄弟社小学校(浅小井)・八幡朝原金田学区コミュニティセンター
(受験者数289名:申込受付351名欠席62名)259名合格
- 令和3年11月14日 優秀表彰式 市立資料館(教育委員長・アカデミー)
○小学生の部 赤羽君(市立桐原東小学校)
○中学生の部 三崎君(市立西中学校)
○一般の部 入江 様(市内丸の内町) 橋本 様(天津市唐崎町)
久田 様(市内中小森町) 水 様(市内栗栗寺町)
村田 様(市内廣町) 一般5名様は満点
- 令和3年11月28日 第3回会員研修会 沖島 日本遺産(研修)
協力:近江八幡観光物産協会 参加人数34名
- 令和4年3月27日 令和3年度総会
- 理事会 毎月土曜日:市立資料館ワークスペース13回 臨時委員会1回
- 検定試験問題作成委員会 白雲館
- テキスト広告掲載協力企業・団体等 50社
- 関西看板様から検定会場案内板寄贈
- 会員益田(ジョイクス)様より第1回勉強会バス提供(2台)

令和3年度 はちまん・あづち ふるさとアカデミー収支会計報告

収入の部		金額(円)	金額(円)	内訳
会費	661,500	200,000	会員40名分×5000円	
		410,500	ロータリークラブ、他団体(一般寄附金等)	
		51,000	勉強会(会費)	
補助金	300,000	300,000	近江八幡市まちづくり補助金	
事業費	860,920	334,200	初級受験料及び勉強会参加費334,200円	
		326,720	テキスト販売代 326,720円@500冊及び販売所で販売手数料20%引	
利息	1	1		
その他	687,789	514,945	協賛企業50社 広告料514,945円 振込手数料	
		172,844	クラウドファンディング 172,844円	
合計	2,310,210			

支出の部		金額(円)	金額(円)	金額(円)	内訳
事業費	2,054,867	358,068	12,204	12,204	理事・委員会
			74,000	74,000	西の遊船代
			68,000	68,000	事前勉強会
			17,702	17,702	講師等謝礼
			57,180	57,180	検定会場使用料 市文化会館他5カ所
			25,180	25,180	図書
			38,500	38,500	問題作成 近江八幡市史24,300円 ・安土町借子 880円
			77,506	77,506	講習報知新聞 告知 切手電話代等
			220,000	220,000	A4チラシ50,000枚
			600,000	600,000	初級テキスト 1,500部等
1,558,114	1,558,114	印刷費	738,114	ダイレクメール三つ折り、受験申込 用紙、ポスター、手帳用チラシA4、 受験者名簿A4等、不都合者報告、勉 励会の資料、問題集作成、勉強会記 念講演等の中止延期案内A4等	
30,991	30,991	消耗品		印鑑、封筒、ファイル等	
95,490	95,490	その他		クラウドファンディング返礼品	
合計	2,054,867				

収入 2,310,210円 - 支出 2,054,867円 = 差引 255,343円
令和4年度 継続

記念講演会：八幡和郎「歴史の定説の嘘 信長・秀吉を中心に」



滋賀県大津市出身。滋賀県立膳所高等学校を経て、東京大学法学部卒業。1975年、通商産業省入省。入省同期に太田房江、石田徹、三本松進など入省後官費留学生としてフランス国立行政学院へ1980年から2年間留学。国土庁長官官房参事官、通産省大臣官房情報管理課長を最後に1997年に退官。松下政経塾特別研究員を経て、2004年、徳島文理大学教授に就任。2016年の民進党代表選挙に立候補した蓮舫参議院議員の二重国籍疑惑をアゴラ、夕刊フジで追及した

歴史・政治・経済等
著書多数

監修
『ビジュアル版 最後の藩主』
『戦国武将の通知表』
『幕末藩主の通知表』
『武士語でござる』
『江戸藩主の通知表』
『戦国大名の通知表』



「歴史の定説の嘘 信長・秀吉を中心に」

本日の話は以下のような本に書いてある内容です
八幡和郎の関連本

- ① 歴史の定説 100 の嘘と誤解世界と日本の常識に挑む (扶桑社新書)
 - ② 365 日わかる世界史 200 万国の歴史を「読む事典」(清談社)
 - ③ 365 日わかる日本史時代・地域・文化・3 つの視点で「読む年表」
 - ④ 日本人のための日中韓貿易史 (さくら舎)
 - ⑤ 日本史が面白い 47 都道府県県庁所在地誕生の謎 (光文社知恵の森文庫)
 - ⑥ 本当は間違いない「戦国史の常識」(S8 新書)
 - ⑦ 「日本国史」は世紀の名著トンドモ本 (PHP 文庫)
 - ⑧ 戦国大名異国語物語我が故郷の武将にもチャンスがあった!? (PHP 文庫)
- なお、現在「令和太閤記 事々の戦国日記」を News Crunch というネットメディアで連載中です。是非、ご覧ください。
<https://wanibooks-news crunch.com/category/series-035>
こちら①の内容のうち関連の深い項目の概要です

① まえがき

学術とか文化とかいうものは、多様な専門分野や経験を持った人の中で、自由闊達な議論が戦われ、それに刺激されて進化し、大きな花をつけるものだと考えてきた。しかし、最近の世の中を見てみると、学者も含めた専門家集団はますます閉塞にこもり、政治家はインテリを馬鹿にし、ジャーナリストや作家は結論に走っている。

コロナ騒動でも、科学者が英知を集めて混乱する世の中に対して進むべき道を示す灯台となるとはなかったどころか、医学界上げて議論を集約しようということもなかった。それ以外の分野の専門家が、自分たちの利益とか、既得権益の秩序を死守するために、緊急事態にふさわしい切り口のいい対処をするということもなかった。治療薬の認可の遅れや、PCR検査の処理能力向上の停滞などその典型である。

安保法制をめぐる浮世離れした憲法学者の議論、家計学園問題で前川喜平事務次官が固執した岩盤規制へのこだわり、学術会議議論で赤い象牙の塔の改革についての後ろ向きな議論、歴史教科書をめぐる保守系教科書への差別的扱いなどあきれるばかりだ。

彼らは狭く昔から変わらない枠組みのなかで、勝手にまじりにやっていた。大学の新学部認可では、獣医系は50年経たない、歯学系は必要を越えに超した増設、医学部は控えめな増設だが、客観的な不足状況は同じで、違いはそれぞれシマが自分たちの利益に合うように運用しているだけだ。

1

一方、政治家の真面目な本を読む人は減っているし、そもそも、主要な政治家の経歴を見ても、高度な知的訓練を受けているとは思えない人が多い。

自民党でも三角大中福の時代までは、リベラル・アーツ (一般教養) を重視した旧制高校時代だった。主要な政治家は旧制高校出身だったし、そうでない人も彼らに負けない教養をものしらないと一流の政治家になれないと考えて努力していた。

それが崩れたのは、ひとつは、旧制高校から新制の教育制度への転換であり、もうひとつは、世襲政治家の全盛により、政治家同士の議論や会話が教養が求められなくなったことだ。それを痛感したのは、小泉純一郎氏がインタビューに答えて、歴史愛を語っていたのが、歴史のエピソードで興味があれば、司馬遼太郎さんなどの小説を読むといった。小説は興味をもつきっかけになり、エンターテインメントとして楽しむのはいが、政治家が過去に学ぶには不都合だろう。

また、マスメディアは、あいかわらず、海外ではタブロイド紙でしかやらないような極論に走るし、テレビの報道番組もまじめに政治を論じる番組は地上波ではからず、歴史番組も多いが、NHKすら奇説を疑いない大発見のように宣伝してばかりだ。

そこで、本稿の後半では、歴史本をめぐる今日の状況について語ろう。

② 織田は平家、徳川は源氏と認められていた

安土城は織田家発祥の地の隣接地であることが築城の理由である

織田信長が桓武平氏とか、徳川家康が清和源氏とかは、どうせ、高い地位を得るための創作だと歴史家は軽く片付けがちです。もちろん、任官するに当たって、いい加減な系図をつけることもありました。公式に系図を認められたら、嘘でも本当でも社会秩序のもとになるし、まわりもその気になります。

たとえば、織田信長は平家の子孫と称していました。平家一門が埋ノ浦で滅びたとき、平重盛の子である安盛も海中に身を投じました。その遺児を運んだ女性が、安土城に近い近江津市津田庄 (近江八幡市) の土家と妻となり、子供は越前丹生郡織田の神官の養子となりました。これが、織田家の祖である真根太らということになっています。

その子孫は、越前守護の斯波氏に仕え、斯波氏が守護を兼ねていた尾張の守護代になりました。織田家は三つの先祖をもっているわけですが、越前の土家である織田家、近江の津田氏 (織田家の庶流はこの名字を名乗っています)、そして、平家です。

上洛したころ、信長が義昭との関係でめめたのは、鎌倉幕府の将軍と執権北条氏とか、当時の関東における河内公方の下における北条氏の地位です (北条氏は平氏)。義昭を名目的な主君とするが、実権は全面的に欲しいと言っています。

一方、義昭は信長を織田家の主君だった三管領家のひとつ斯波家の継承者として平の扱いを提案しましたが、信長は満足しませんでした。そこで、信長は北条氏モルから平清盛モデルに乗り換え、公卿としての栄達を求め、右大臣となりました。その後、これを辞しますが、平清盛でも太政大臣だった期間は短いわけで、異常ではありません。

2

信長は安土城を築きました。織田家発祥の地である津田庄のすぐ近隣でもあることを「偶然」というのは不自然です。やはり平家ゆかりの地を意識していたと思います。

徳川家康については、群馬県太田市で新田氏一統の世良田 (あるいは徳川) 氏を名乗っていた親氏という武士が、事情があって出奔し、時宗の僧侶として三河に流れ、豊田市の松平郷で在原氏を祖先とするともいわれる旧家の入り婿になったとされています。

系図の細部は家康が任官するときに整えられませんが、祖父の清隆が世良田氏を名乗っていたことは判明していますので、おそらく、三河にやって来た段階からそう称していたのだと思います。ですから、関東に移封されたことは、家康にとっては唐突でも、家康にとっては素直に受け止められることだったのだと思います。

③ 2 豊臣秀吉は信長や家康より偉大である

ナポレオンに比肩する総合的な近代国家改造を二世紀以上前に実現

太閤人気は江戸時代ですら根強かったのです。朝鮮征伐などで民衆は疲弊し怨望の的だったという人もいますが、秀吉の七回忌の時の豊国祭礼は空前の盛況であり、秀頼上洛の際に民衆が見せた熱狂ぶりや豊臣の天下が再び来ることへの期待は、家康を過ぎりし、かえって豊臣滅亡の引き金になったほどです。

その後幕府の禁圧にもかかわらず、「太閤記」は人々に愛され、維新後は、勤王の士としての秀吉が再評価され明治元年に豊国神社が再建されました。戦後は、高度成長時代のサラリーマンにとって憧れの的でした。しかし、日本人が後ろ向きになったのと軌を一にして人気も低下しました。

また、文禄・慶長の役で韓国を攻めたこともあって、秀吉をヒーローとして扱うことがタブーになり、「信長は不世出の革命児であり、家康は永続的安泰の礎を築いた大政治家」としながら、獨創性がない幸運に恵まれた要領のいい男としてとらえ、真正面から描かず、その人間性の弱点をつき、面白おかしく描くことが流行っています。しかし、信長やほかの戦国大名が流行していた近世社会の枠組みを体系的に一気に実現した功績は、西洋史でいえばナポレオンに比肩します。秀吉の日本は世界の最先進国のひとつでした。もし、秀吉が長生きし、その政權が死後も続いたら、アジアが欧米の植民地になるようなことはなかったことでしょう。

このころ、「破壊者」であることが人気を博しがちで、それが織田信長の人気の背景であり、江戸時代や徳川家康の再評価論のように、静かで停滯的な世界への憧れや評価もあります。他方、世界最新鋭の知恵を結集して、意図的に新体制や秩序を建設することは誰もめざさない、評価されないのが日本の悪習で、秀吉が評価されないことは、そのまま日本の退歩の象徴ではないでしょうか。

破壊は建設のための手段に過ぎません。戦国の諸大名や信長の事業を「良いこと取り」する形で、法令の整備、兵農分離など身分制度の整理、権威としての朝廷の尊重、通貨制度の確立、統一税制の樹立、度量衡の統一、交通インフラ (江戸や大坂といった) 拠点都市の選定や整備などをすべて一人で成し遂げたのであり、それは、ナポレオンに匹敵するものだと思うのです。

*③ 2 豊臣秀吉事件の原因は大政所死にあり

娘を後ろ盾に嫁は女主人として君臨したが大政所の死で統率できなくなった

太閤秀吉の人気はもうひとつなのですが、豊臣家の人々は、大河ドラマの登場人物としては大政所です。ファミリードラマにしやすいからです。生まれながらの大名でないの、普通の家族らしい、人間模様が描けるからです。秀吉は織田高専ともいべき企業のサラリーマン重役から社長になったので、常に大政所への圧力に晒されています。賤合の戦いの頃は、信長の四男である次子次郎長を養子にしていたので問題はありませんでした。しかし、秀吉は権中納言・丹波亀山城主になったものの、1586年に19歳で死にました。九州攻めの直前です。

そこで、秀吉は織田家の血を引く子どもを授けられぬかと茶々を側室にし、1589年には鶴松が生まれました。しかし、鶴松は1591年に夭折したので、秀吉は跡の子である秀次を後継者に決め、関白の地位と繁栄を譲りましたが、一年半のうちに、淀殿が秀頼を生み、1595年には秀次が追放されて高野山で自害させられました。

この事件の原因は、私は大政所の死に伴うファミリーの前嫌だと思えます。秀次が関白になった翌年に秀吉の母である大政所 (なか) が死にました。それに先だって秀吉の異父妹で徳川家康夫人になっていた娘と異父弟の秀長が相次いで死去していました (1590年と1591年)。秀吉の母である同父姉のともが秀次の側室である屋敷を夫とともに支配していましたが、大政所の死で意思疎通も悪くなっていたのでしょう。普通なら、北政所が秀次のあとに秀頼とて話をもとめ動くはずなのに、その気配がなく、それどころか、北政所の秘書である考證主が繁栄の秀次をだまして伏見に誘い出し高野山に送りました。秀吉の気持ちも揺れ動いてしょう。油断させるといったこともあったでしょうから、こういう手紙があるからこうに違いはないなどと言うより流れを見ていくことが大事です。

それまで豊臣家の女主人として大活躍していたに不慮ですが、私は北政所も大政所の後ろ盾があつてこそ豊臣一族をまとまらせたのだと思えます。秀次は秀頼が成人したら詰るか、自分の養子にして娘と要するが秀次の方から早くに申し出るべきだったに躊躇しました。若い側近たちが、「秀吉が死ぬまで待てばいいから早まるな」と進言したのでしょうが、秀頼は秀吉の美子で、しかも、織田家の血を引いていたので、あまり賢明とはいへませんでした。